
当院血液透析患者における MMSE と生命予後の関連

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮崎沙弥香 中村麻美 白井美千代 林田征俊 丸山祐子 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司
船越 哲

【目的】

当院において 2016 年と 2018 年に認知機能検査(mini-mental state examination ; MMSE)を実施し、認知症と生命予後の関連を調査した。

【方法】

当院透析中で、2016 年 3 月時点で 65 歳以上で MMSE の実施について同意を得た 181 名に検査を実施し、2018 年 9 月に追跡可能であった 112 人に再度 MMSE を実施した。

【結果】

2016 年の結果は正常(1 群)91 名(平均年齢 72.9±7.0 歳)、軽度認知症の疑い(2 群)47 名(平均年齢 77.8±6.0 歳)、どちらかという認知症の疑いが強い(3 群)43 名(平均年齢 81.4±6.7 歳)であった。2016 年時の 1 群は 2018 年に 76 名が生存(80.9%)していたのに対し、2 群では 36 名(55.3%)が生存、3 群では 16 名(37.2)の生存に止まった。

【結論】

血液透析患者における認知機能の低下と死亡率との関連が示唆された。